

令和6年度第8回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和6年12月17日（火）15:30～16:45 評議会室

出席者：井手理事長、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、林理事、高橋理事、山本監事、元永監事

事務局：澤野事務局次長、真溪総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、小椋地域連携・研究支援課長、堀江高等専門学校開設準備室長、前田課長補佐、畑野主事

令和6年度第7回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）は、原案のとおり承認された。

議 題

（審議事項）

1 令和6年度補正予算（案）について

高木財務課長から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

〔主な意見・質疑等〕

- ・学内情報ネットワークシステム賃貸借やソフトウェア包括ライセンスの予算が機能維持にもかかわらず、大きく増額しているのは問題ではないか。今後は、契約先との価格交渉の余地はないか検討してほしい。

2 公立大学法人滋賀県立大学第3期男女共同参画推進計画（素案）について

真溪総務課長から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

〔主な意見・質疑等〕

- ・「ハラスメントのないキャンパスを目指します。」と目標があるが、この中にカスハラは規定されているか。カスハラを理由に辞める人を調べてみると大学でも多く、今後取り組むべき大きな課題だと思う。
→カスハラについては規定できていないが、様々なところで議論されており、今後、法整備などが進んでいくであろうと認識している。カスハラ対策を含め、従業員の安全配慮を意識した体制整備を考えていきたい。
- ・アンケート調査結果の中で、育児休業について「利用したかったが遠慮した」という回答があったが、これに対する具体的な解決策はあるか。ある事業所では、組織内で過去に業務を経験したことがある人を一時的に派遣する仕組みもある。
→本学では県のように代替要員として人員を確保することは難しい。まずは意識改革を進めて育児休業の取得を促進していきたい。

3 人間看護学研究科博士前期課程設置届出（課程の変更）について

寺村経営企画課長から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

(報告事項)

1 令和6年度中間決算の概要について

高木財務課長から資料に基づき報告があった。

[主な意見・質疑等]

- ・受託研究等収入が減少している。今後は力を入れていくべきである。
→令和6年度の収入が大きく減少しているよう見えるのは、令和5年度に高額を受託研究があったためである。受託研究は増やしていかなければならないと認識している。

2 令和7年度予算要求状況について

高木財務課長から資料に基づき報告があった。

3 開学30周年記念事業について

寺村経営企画課長から資料に基づき報告があった。

4 教育実験実習費繰越制度の創設について

高木財務課長から資料に基づき報告があった。

5 令和6年度卒業・修了予定者の進路内定状況等について

川分学生・就職支援課長から資料に基づき報告があった。

6 令和7年度学校推薦型選抜等特別選抜試験の合格状況について

郡田教務課長から資料に基づき報告があった。

(その他)

1 公立大学法人滋賀県立大学職員給与規程等の改正について

真溪総務課長から資料に基づき、改正予定の内容とともに、1月上旬に書面にて規程改正の承認を求める予定である旨の説明があった。

2 その他

[主な意見・質疑等]

- ・大学全体としての予算の増額が抑えられている中、このままでは、現状の大学運営を維持してだけでも予算的に厳しくなってくると思われる。例えば、情報ネットワークシステムの更新であれば、情報に関する学科があるのだから、委託業者との協議において、教員に協力してもらうようなことも考えるべきではないか。あるいは、予算の有効活用のため、各部局の知恵を寄せ集められるような部局横断的な検討会を設けるなどの工夫も必要だろう。
→意見として承る。